

会報

みらい

目次

- p.1・「みらい」に寄せて
・各委員会からの報告
研究研修委員会より／広報委員会より
- p.2・各委員会からの報告
文化委員会より／体育委員会より
／卓上競技委員会より

発行人：神奈川県身体障害施設協会 代表者：伊藤 崇博 編集：広報委員 印刷：アテイン

「みらい」に寄せて

貴協会会員の皆様におかれましては、日ごろから本県の障害福祉の向上に多大なるご尽力をいただき、厚くお礼申し上げます。

このたび4月1日付けで障害福祉課長に着任いたしました、水町です。昨年度までは、同じ保健福祉局内の総務室に席を置き、保健福祉行政全般にかかる施策の企画・調整などに携わっておりました。



そして、この4月に障害福祉課長に着任し、障害福祉課が所管する事務が非常に幅広であること、また、神奈川の障害福祉には様々な歴史があり今日に至っていることを知り、改めて学ぶことの多い毎日を送っている次第です。

さて、今年度は現行の第4期障害福祉計画の改定の年であります。県では、これまでで障がい者の方々の地域生活移行、自立支援や就労支援と

神奈川県保健福祉局福祉部障害福祉課長 水町 友治

いった社会参加の推進などに取り組んで来たところですが、改めて、厚生労働省が示した基本指針に基づき第5期障害福祉計画を策定し、次年度以降、新たな成果目標の実現に向けて具体的な取り組みを進めてまいりたいと考えております。



このほか、今年度はヘルプマークの普及啓発や、12月の障害者週間には差別解消フォーラムの開催など、障がい者の方々への理解促進にも力を入れて取り組んでまいります。

こうした取り組みをとおして、少しでも障がい者の方々に住みやすい神奈川になるよう、「ともに生きる社会かながわ」の実現を目指して尽力してまいりますので、貴協会におかれましても、これまで同様にご協力くださいますようお願い申し上げます、着任のご挨拶とさせていただきます。

各委員会からの報告

研究研修委員会～活動状況について～

研究研修委員会に携わらせていただき3年目を迎えるリエゾン笠間の小林です。このたびは委員会活動についてということですので研究研修委員会として大切にしていることを少しお伝えできればと思います。

この委員会をお受けしたときは、社協さんをはじめ、身障協の中でも多くの研修企画を年間通じて行っているなかで、何をすればよいのかわかりませんでした。委員長がよく解らない中で第1回目を開催したわけですから、メンバーから活発な意見がでるわけでもないのは自明の理であり、年間2回も研修企画を実施することに正直不安を覚えたことを記憶しております。そのため2回目は実行委員メンバーの皆さんが、各自の職場で行いたい研修を聞き取りしていただき、現場のリアルな思いを企画してみようと意見交換に時間をかけました。その中で出てきた企画がバスツアーでした。県内の他施設を見学したい、活動内容や困っていることを共感、共有したいというものでした。ふだん利用者さんの自己実現を支援している我々にとって、職員さんの思いを形にする企画は非常に楽しいものでした。足柄療護園さんやアガペセンターさんにご協力いただいた施設見学ツアーは、メンバーが



チーム一丸となって作り上げた実感と成果が結果として現れた企画のひとつでした。仕事は「ワクワクがなければなりません」と個人的に日々思っておりますので、これからも皆さんと研修企画を通してワクワクした活動に取り組んでいけたらと思いますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。

研究研修委員会委員長 小林 浩一

広報委員会

～こんな風に「みらい」をつくっています～



今年度の広報委員会は、広報誌づくりが初めてという人から業務でも作っているよというベテランまでの6施設6名の委員と委員長の7名で構成されています。

初めて会ったとは思えない、なかなかチームワークの良いメンバーです。

今回「みらい」作成にあたって、神奈川県身体障害施設協会ならではの紙面にしようという方向性が決まりました。まずは独自の活動である委員会について特集するもいいのか？そんな意見が上がり、今回のテーマが決定しました。

編集後記でもないのに広報の活動記事をメインに掲載してもいいのだろうか？今年の広報は前のめりだと言われないかな、そんな年があってもいいよね、と手探りで取り組んでいます。

広報委員会は会場を持ち回りで開催していますので、他施設の様子を知るよい機会でもあり感化される場でもあります。委員会も例年よりも少し多めに開催し、たくさんの方々の刺激を受け親睦も図りつつ、紙面づくりをすすめていく予定です。

次号に向けて視点を変えたアンケートもやってみようか、おなじみとなっている記事も差し替えてしまおう！手に取った人が知りたいこと、読みたい記事は何だろう、「みらい」らしさって何だろう、様々な疑問や意見が出され議論を重ねています。

最終目標は、委員会からではなく、たくさんの方々の皆様に、うちの施設も是非取り上げてほしいと声がかかることです。

まずは「少し変わった？」と気づいてもらえることから一歩を踏み出せればと思っています。

広報委員会 門倉 桃子

